

## 方針 9 世界の音楽家、音楽団体との国際交流を広げる

### 〔国際交流〕

カナダ・バンクーバーで開かれた世界平和フォーラムに5人のうたごえ代表団を送り、街頭で、パレードで、集会でうたい、語り、核兵器廃絶と憲法九条を世界に発信した。特に「ねがい」のうたが国境を越えて人々をつなぐ様は感動的でもあった。

日本AALAの招聘で来日したベネズエラ代表団を迎えるにあたって、第2の国歌ともいわれる「平原の魂」を全国の歓迎集会で演奏、交流成功の一助になり、アジアの風プロジェクトの新しい成果となった。

8年間の積み重ねの上に立った韓国との民衆の音楽交流は、労音やAALAなどとの共同もひろげながら、さらに熱いものとなった。光州芸術祭に演奏参加、キム・ウォンジュン日本公演を大阪・神戸・広島・埼玉・東京立川の5都市で実現、サム・トゥッ・ソリが来日、赤旗まつりや日本のうたごえ祭典で熱い演奏を聞かせた。なかでもキム・ウォンジュン公演の取り組みは、韓国大使館も後援、在日の人々との共同も広げ、貴重な成果を上げた。

中国・南京では全国紫金草ネットワークの第5次中国公演が11都府県14合唱団、約150人の参加で実現。南京理工大学の学生が中国語で「紫金草物語」を合唱するなど、未来につながる文化交流となった。10月には「ぞうれっしゃがやってきた」の南京公演、そして南京平和鳩合唱団の日本のうたごえ祭典招聘へとつながった。

アフガニスタンの子どもサーカス日本公演の事業に埼玉のうたごえ協議会が共催団体として加わり、音楽センター、センタープロダクションも協力し、成功の力となった。井上頼豊没10年を記念して、カザルスの故郷でうたう「鳥のうた合唱の旅」が6合唱団の有志24人の参加でおこなわれ、地元合唱団との演奏交流も実現した。東京・江戸やっこまつりには、和太鼓サークル「跳鼓舞」と以前から交流のあったアメリカ・アラスカ州から19人の小中学生が来日、「ぶちあわせ太鼓」の日米合同演奏を実現。川崎太鼓仲間響との交流の中でスイスに和太鼓チームが出来、来日して交流。姫路の太鼓集団鯨のオーストラリア公演など民族芸能の分野での国際交流も活発におこなわれた。